

学会ハイライト

第82回日本皮膚科学会東部支部学術大会と 第45回皮膚かたち研究学会を終えて

(2018年10月3日～7日, 星野リゾートOMO7旭川)

山本 明美

旭川医科大学皮膚科学講座 教授

第82回日本皮膚科学会東部支部学術大会を2018年10月6日, 7日の会期で星野リゾートOMO7旭川において開催しました. これは2003年に飯塚一名誉教授が第67回の大会を開催して以来, 15年ぶりのことでした. 総参加者数は812名と多くの皆様にお越しいただき無事終了いたしました.

テーマは「For Dermatology in the Future」

このテーマに込めた思いは, この大会をこれまで私たちが受け継いだ先人たちからの知的財産をどのようにこれからの世に残し, 継承, 発展させてもらうかを考える機会にしようということです. 具体的には, まず何かを残したくても相手がないことには話が始まらないので, 将来一人でも多くの学生が皮膚科を専門領域に選んでくれるように, 医学部学生は参加費無料とし, 「学生さんへのメッセージ」セッションにおいて大阪大学の玉井克人教授と杏林大学の大中学教授に皮膚科学の面白さを語っていただきました. 道内外から40名近くの学生さんがこの講演を聞いてくれました.

特別講演では旭川医科大学学長の吉田晃敏教授に「クラウド国際遠隔医療を目指して」と題してご講演いただき, 旭川医科大学の先進的な取り組みを披露させていただきました. また, 文化人講演は経済評論家・勝間和代氏に「男女共同参画を阻む無意識の差別とは」と題してお話いただきました(図1). 迫力のある講演は女性差別が問題と



図1 勝間和代氏と筆者

なっている医学部の現状に一石を投じる結果となったと思います. 海外からの招請講演としては, 私の長年の友人でもある英国キングスカレッジの



図2 記念品の電顕写真データ入りUSBメモリー

John McGrath教授が「遺伝性皮膚疾患の診断と治療の現状と将来」について、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校のAnna Di Nardo先生には「皮膚自然免疫のマスターレギュレーターとしての肥満細胞の多彩な機能」についてご講演いただき、最先端のサイエンスに触れることができました。

また、美瑛町在住の写真家・中西敏貴氏による美しい美瑛地区の写真と撮影秘話が盛りだくさんのトークショーも開催しました。雪の美術館での会長招宴(なりゆきでアナ雪に扮していただきましたが、けっこう喜んでいただけて嬉しかったです)、懇親会での北海道料理や旭川医科大学ダンス部のパフォーマンス、旭川市のゆるキャラの登場と参加者の皆さんに楽しんでお過ごしいただけるよう、いろいろと工夫を凝らしました。

今回は参加者への記念品として、中西さんの写真入り絵葉書と、私と教室員の井川哲子が撮った正常皮膚の電顕写真を解説とともに電子データで入れたUSBメモリーをお配りしました(図2)。電顕所見の勉強に役立てていただければ嬉しく思います。

サテライトミーティング

今回の東部支部学術大会はその直前の10月3日夜から5日にかけて同じ会場で皮膚かたち研究学会とヨーロッパの形態研究の学会(SCUR)のそれぞれの年次大会を兼ねて第7回となるジョイント学会をサテライトミーティングとして開催しました。国内外から108名の方にお越しいただき、活発な情報交換の場となりました。

おわりに

今回の2つの学会の連続開催にあたっては松尾忍同門会長、本間大事務局長(東部)、堀仁子事務局長(皮膚かたち研究学会)はじめとする教室員、医局秘書、技官の皆さんにいろいろな場面で助けていただきました。また、山田紀子さんをはじめとする日本皮膚科学会の総会・学術大会チームの皆さまには、学会の企画段階から終始、たいへんお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。皆さま本当にありがとうございました。